

第6次斜里町総合計画策定委員会 第5回部会長会議 記録

1. 日 時 平成25年5月14日(火) 18:30~21:15
2. 場 所 ゆめホール知床 会議室 3
3. 出席者
 - ・ 委 員：委員長ほか、計9名
 - ・ 事務局：総務部長ほか、計5名(玉井主事欠席)◇合 計：14名
4. 結果要旨
 - 各部会の協議状況を、計画体系(資料4)をもとに確認・共有した。
 - 総論部や基本構想部で今後協議すべき課題を確認した。資料5-1の、どのような総合計画書をめざすのか(コンセプト)については、資料に記載の例示で概ね了承された。資料5-2の総論部は、事務局でたたき台を作成し、順次協議を進めることとなった。資料5-3の基本構想部は、まず基本テーマについては異論もありながらも、仮置きしているテーマを保持しつつ、必要に応じて再協議をすることとし、その他の項目は、追って協議をすることとした。
 - 資料4の基本目標・政策・基本施策について、表現や項目の調整が試みられたが、議論が平行線をたどり、当面、「政策」(レベル4)では、10~15字の字数制限をすることとなった。項目数や表現方法は、部会でも検討してもらった上で、次回以降、調整していくこととなった。
 - 資料4の計画体系を6月定例議会で報告するべく、部会や部会長会議の開催に鋭意努力することを確認した。
5. 結果詳細 下記のとおり

2. 委員長挨拶

策定期間の折返しを過ぎた。各部会が検討した結果が、先の全体会議で決まったフレームに落とし込まれているので、基本構想部を中心に本日の議論を進めていくので、よろしくお願ひしたい。

3. 経過報告

(1) 第4回部会長会議、第3回全体会議、各部会の開催結果について

- ・ 事務局より資料1～3の確認依頼（説明は省略）。
- ・ 意見・質問なし。

4. 議事

(1) 計画体系の検討状況について

- ・ 資料4に記載された内容について、各部会長より検討経過や補足説明を行った。

○ みどり部会

- ・ 環境基本計画の議論を先行させているため、資料4では、同計画で予定している項目を暫定的に当てはめたものとなっている。
- ・ 政策の部分では6項目中4項目の議論が終了している。基本施策部分は、議論を重ね、内容を精査していき、これらの結果を総合計画の体系に落とし込む作業を今後進めていくことになる。次回の部会は5月22日の予定。

○ しごと部会

- ・ 各委員が持ち寄ったフレーム案を基に議論を行い、削ぎ落とししたり、結合させる作業の結果、今のところ4つの政策となっている。
- ・ 生産基盤整備は、特に第1次産業には不可欠であることから、重要であるとの議論があり、1つ目の柱とした。
- ・ 2つめのブランド化は、知床しゃりブランドをイメージする方も多いと思うが、思いとしては、斜里という地域自体のブランド化の意味が中心である。十勝と知床のブランドイメージを考えればわかりやすいだろうか。つまり、その土地の文化・風土・生産物等をブランド化することの重要性が議論された結果である。
- ・ 産業の連携・協働の項目は、生産年齢人口を確保し、生産活動を維持していくためには、産業間の連携・協働が必要であるという認識から柱の一つとして挙げている。
- ・ 担い手の育成と確保は、各産業で共通の課題であり、不可欠と考えた。

○ まちなみ部会

- ・ 諸般の都合で、部会開催を2回延期しており、部会を開催できていない状況である。これまでの議論を行政委員が整理したものをベースに、次回議論していく予定である。

○ くらし部会

- ・ 時代に則した形にしているつもりだが、第5次計画とは大きくは変わっていない。ただ、防災の項目を特出ししている。
- ・ 本日の部会長会議の結果をうけ、次回部会で議論を深める予定である。

○ いきいき部会

- ・ アンケート結果を勘案し、キーワードを出し合い議論を進めている。単位施策を意識しながら基本施策を構築している。
- ・ 医療・保健の項目は、アンケート結果から地域医療の充実に関心が高いことが伺えたので、あえて最初の項目にもってきている。「国保病院」という名称も、あえて出した。
- ・ 高齢化社会は必至であることを考えれば、高齢者福祉が重要事項であることを確認しており、項目として挙げている。福祉については、マンパワーの確保、高齢者福祉に対する理解が必要であり基本施策にあげている。
- ・ 全体会議でも話があったとおり、政策の記載方法は、この部会長会議で議論されることだったので、暫定的な分野名を入れてある。

○ まなび部会

- ・ 資料4に落とし込めていないが、記載していないが、課題を出し合って議論を進めている。
- ・ 政策は、「学校教育」「社会教育 or 生涯学習」「文化芸術スポーツ」の3つになりそうである。
- ・ 「学校教育」の分野の議論は終わっている、次回部会で社会教育分野に移っていく。

○ ちょうみん部会

- ・ 町民憲章、協働、国際化、行政改革等幅広い分野を所管している部会であるが、各委員が案を持ち寄り議論の中で削除や結合作業を行い、仕上げてきた。
- ・ 文言は、縛りを設けず、ラフな表現で、夢を盛り込んだ内容になっている。
- ・ 今後は単位施策等の議論になるが、できる限り夢のある内容を踏襲できればと思っている。

(2) 総論部・基本構想部の骨子について

- ・ 事務局より、資料5～7の説明を行い、資料4の計画体系も含めた議論に移った。

○ 資料5-1：総合計画「書」のコンセプトについて

- ・ 大切なことは、計画に対するイメージを各委員が同じにすること。
- ・ 総合計画の核になることを絞り込めると作業も進みやすいのでは。
- ・ 第6次計画では今までの計画とは違う目線で行くのかどうかのコンセンサスが必要ではないか。各部会から上がってきている途中経過をみると第5次計画とそんなに変わっていないと思うが、総合計画に対する町長の話をして2回聞いたところでは、町長は5次計画と違う計画にしたいということを感じられた。
 - 町長は、計画書自体を変化させたいということではなく、策定方法を変えたい、町民と一緒に作ることに意味があると言っていたのではないかと。
- ・ 計画「書」としてのコンセプトは、今までの作業で5次計画を簡素化することで共通

認識が持っているとと思うので、資料5に示されているもので良いのではないかと。

- ・ 骨太という表現はトレンドではあるが、骨太が引かかるので一考願いたい。
- ※ 例示されているような内容を満たすような計画書をめざすこととなった。

○ 資料 5-2-(1)：社会情勢、時代の潮流

- ・ キーワードの例示で「社会と教育環境の変化？」とあるが？マークはいらない。まさに今問題となっているものであり、斜里町においても学校が地域のものでなくなってきた。
- ・ 「格差社会」は都市と地方との差ならわかりやすいが、斜里町内でみると中々見えてこないのではないかと。
→ アンケート結果を見ると、ウトロと斜里市街地では回答内容の色が違うのも確かではある。
- ・ 社会一般のことを書くのか、斜里町に関係することを書くのかによるのではないかと。
- ・ 書きぶりとしては、国際、国内の情勢から斜里町の関係する課題を記述等で表した方が良いのではないかと。
- ※ 雑多に書かれていて本当にまとまるのか不安は残るが、事務局でたたき台を作成することとなった。

○ 資料 5-2-(2)：斜里町の現状と課題

- ・ 町として解決できる課題もあれば、国の政策が関わってくるのもあるのではないかと。
- ・ 課題を解決に近づけるための総合計画であり、課題整理が重要である。課題を意識しながら今後の議論が必要である。
- ※ 今後の計画（政策・施策等）の組み上がり状況と矛盾しない記述にならないように注意しながら、事務局でたたき台を作成することとなった。

○ 資料 5-3-(1)：基本テーマ（将来像）

- ・ 現在仮置きしている「幸せを実感できる、住みよいまちづくり」に少し手を加える程度かもしくはそのままでもいいのではないかと。
- ・ 「住みよいまちづくり」の文言は理解できるが「幸せ」の言葉が重く感じる。住みよいまちは目指しやすいが、幸せを目指すことは、人それぞれ「幸せ」が違っているので難しい。
- ・ 現在の文言はベターな表現で当たり障りない感じで、逆にインパクトがない。どちらをとるかで、表現が変わってくる。
- ・ 現在のテーマは、町長の言葉そのものであり、10年間の計画なので、変えても良いのではないかと。
- ・ テーマは今後の議論で詰めても良いのではないかと。部会での政策を見て決めても良いのではないかと。
- ※ 議論の結果、テーマは現在のまま仮置きとし、後日、あらためて協議することとなった。

- 資料 5-3-(2) : 将来人口目標
 - ※ 第 3 回 (2/26) の部会長会議で出したあとに、最新の人口予測が発表されたため、その予測に基づき、資料を作り直した上で、次回協議することとなった。

- 資料 5-3-(3) : 土地利用の基本方針
 - ・ 土地利用は町政で重要な事柄である。記載すべきものではないか。
 - ※ まちなみ部会との関連が強いので、まちなみ部会でまず議論を深めてもらい、その結果に基づき、部会長会議で協議することとなった。

- 資料 5-3-(4) : 財政運営の基本方針
 - ・ 政策に必要な財源を確保まで明記する必要はあるのか。
 - 最終的にどのような記載の計画になるのかにもよる。財源的な裏付けが求められるような計画になるのか否か。最近、財政一般の記載にとどまり、個別の財源裏付けまでは記載しないことが多いようである。
 - ・ 夢の事業をするためにはある程度の財源確保は必要ではないか。
 - ・ 公共施設の総枠規制等の考え等もできるのではないか。
 - ・ 財政場状況は人口・産業等の要因もある。
 - ※ いずれにしても何らかの記載は必要になるので、策定状況をみながら協議を求めるところとする。

- 資料 4 の計画体系の各レベルでの表現・記載方法の統一について
 - ・ 部会内でも表現方法を示して欲しいとの意見が多いので、統一できないか。
 - ・ 政策は「～事業」ではなく、ぼんやりとした表現でなければ、つながる下層が苦しくなってくるのではないか。
 - ・ 政策は目的ととらえ、インパクトや解りやすさを考慮してはどうか。
 - ・ 政策は夢を込めて、形容詞も入れて簡素な表現で良いのではないか。
 - ・ 単語だけで表現し、興味を示してもらえるような表現でも良いのではないか。
 - ・ 文字数である程度制約し整えるのか、語尾を統一するのか方法はいくつもある。
 - ※ 議論の結果、表現の統一には至らなかったが、「政策」のレベルでは、10～15 文字になるようにすることで一致し、その結果を部会に戻し、議論してもらった上で再度調整を図ることとなった。

- 資料 4 の「政策」レベルでの項目数について
 - ・ 政策 3 つ、基本施策 3 つの体系が崩れている。政策では、2～5 つと、部会間でばらつきがある。
 - ※ それぞれ議論を経ての状況なので、しばらく様子を見ることとする。

(3) その他

- 行政委員のサポート
 - ・ 行政委員も全てをわかっているわけではないので、担当外の分野の話になると、議論が深まらないことがある。配慮をお願いしたい。

- 重点施策の設定
 - ・ 他町の例でもあったように、重点施策を設定するべきと思うが、どうするか。
 - ※ すぐに結論は出せないが、重点施策、施策の優劣などを意識しながら、部会議論を進めてもらうこととなった。

- 連携事業の取り扱い
 - ・ 複数の部会、施策にまたがるような項目、例えば健康や雇用など、はどのように取り扱うか。
 - ※ もうしばらく部会議論を進めてから、部会長会議で何らかの形で調整をすることとなった。

- 計画体系の議会提示
 - ・ 6月議会で計画体系の進捗状況を6月議会で報告するべく、6/7までにあと2回部会長会議を開催し、ぎりぎりまで協議を重ねることとした。次回5月30日、次々回6月7日とすることとした。

以上

第6次斜里町総合計画策定委員会 第5回部会長会議 出席者名簿

◇ 委員 ◇

役 職	氏 名	出 欠	備 考
委員長	三浦 勝利	○	
副委員長	門間 哲也	○	
みどり部会長	下山 誠	○	
しごと部会長	高橋 秀典	○	
まちなみ部会長	元木 誠二	○	
くらし部会長	戎居 桂三	○	
いきいき部会長	梅村真由美	○	
まなび部会長	近藤 将人	○	
ちょうみん部会長	武山 俊一	○	

◇ 事務局 ◇

役 職	氏 名	出 欠	備 考
総務部長	北 雅裕	○	
企画総務課長	馬場 龍哉	○	
企画係長	河井 謙	○	
企画係	竹川 彰哲	○	
企画係	塩 幸也	○	
企画係	玉井 佐耶加	×	

◇ オブザーバー ◇

役 職	氏 名	出 欠	備 考

◇ 一般傍聴 ◇

所 属	氏 名		備 考